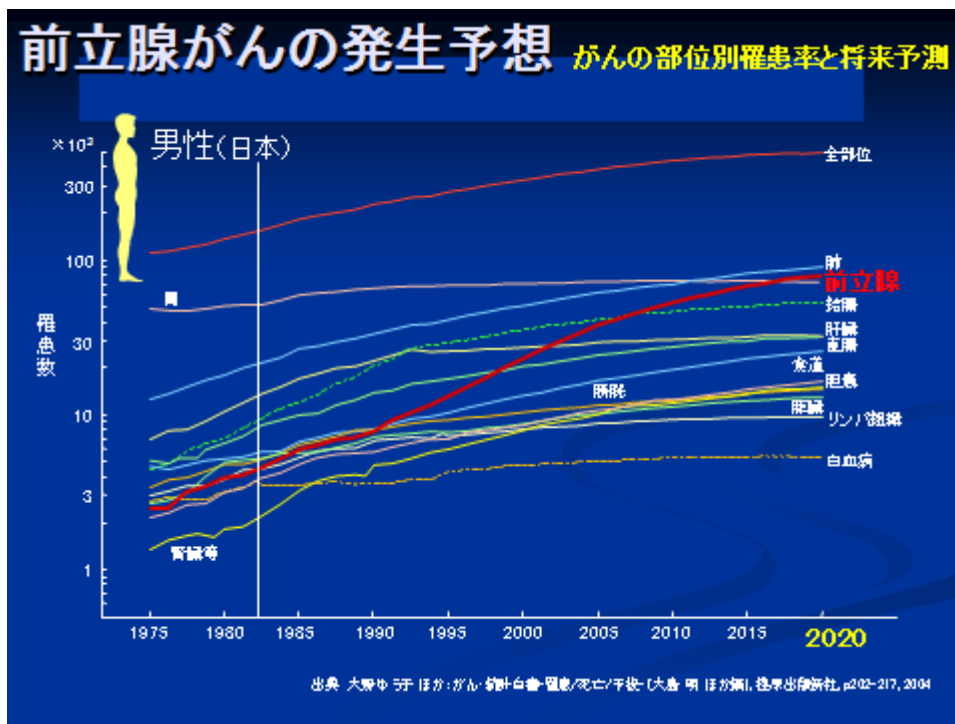


2020 年 10 月 1 日

～手術支援ロボット（da Vinci Xi システム）～について

前立腺は、骨盤内にある臓器で、そこから発生する前立腺がんは最近増加傾向にあります。2018 年には、前立腺がんは、肺がんの次に多い男性がんとなり、年間約 8 万人が罹患し、約 1.2 万人が亡くなると予想されています（国立がんセンター）。患者数は約 6 倍（1995 年比）、死亡者数は約 3 倍に上る（2000 年比）と考えられています。「前立腺がんは、高齢者のがん」と思われがちですが、40～50 代からの若年発症も増えているのが現状です。



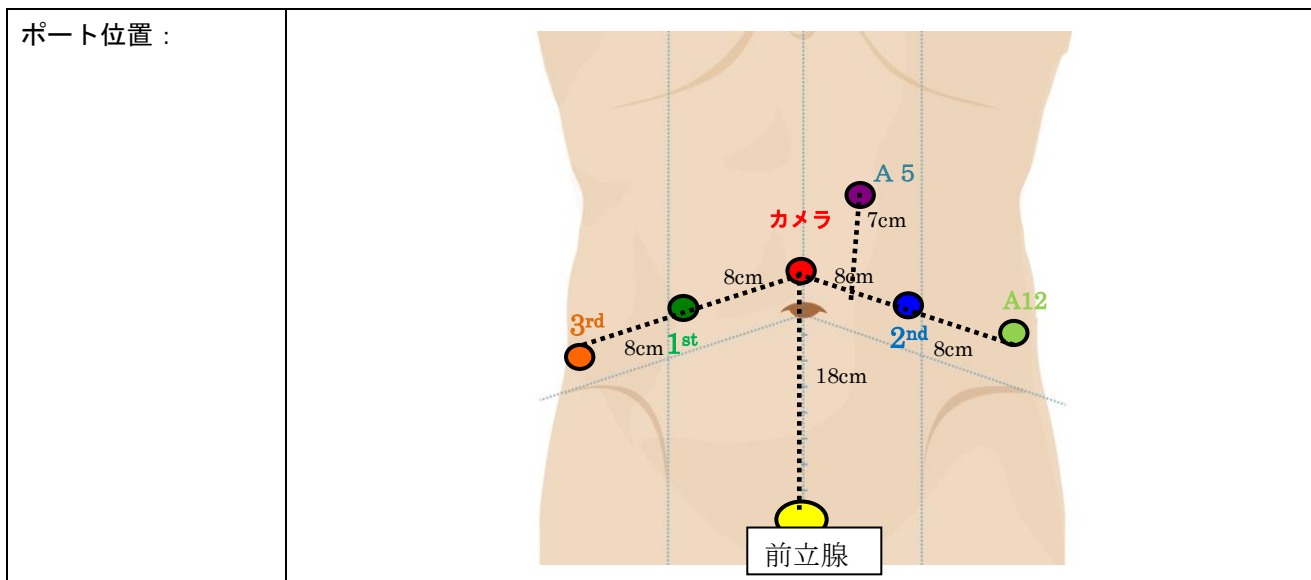
当科（大阪警察病院泌尿器科）では、これらの早期（限局性）前立腺がんの患者さんの治療に積極的に取り組んでいます。早期（限局性）前立腺がんは、早期に適切な治療を行うことが必要で、最近では『前立腺がんでは死なない』というイメージは間違いと考えられています。それぞれの治療には長所と短所があるため、よく理解した上で、ご自分にあった治療を選択していただくことが大切です。

1. 当院における手術療法について

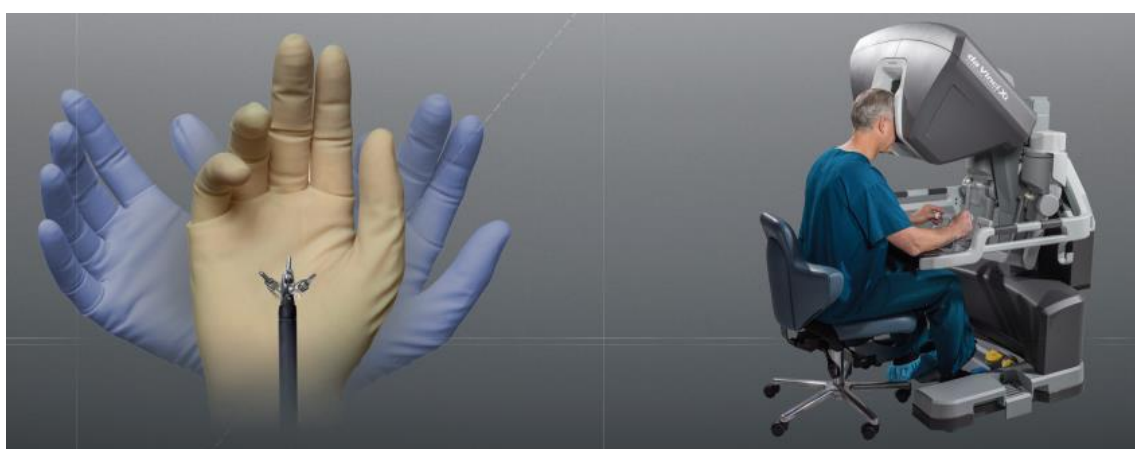
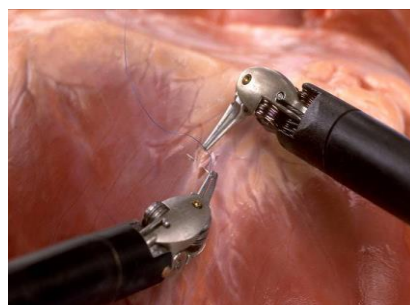
早期（限局性）前立腺がんの治療としては、最もスタンダードな治療です。当科では、2013年11月より、最新の手術支援ロボット（ダヴィンチ Si→Xi システム）を導入し、症例を重ね、より低侵襲で質の高い前立腺がん治療を行っています（後述）。手術療法は、前立腺を完全に取り除くため、根治の可能性が高い治療です。また、手術時に可能な方は、できるだけ前立腺周囲の神経（勃起神経）を温存する手術を行い、術後のEDや尿失禁の発生率を低減するように努めています。入院期間は、術後約7日間です。症例によっては、従来の開放手術や腹腔鏡の手術も行っています。

【ダヴィンチ Xi システムとは】

ダヴィンチを使用した手術では、従来の開放手術では難しい繊細な縫合が可能で、出血量が低く抑えられる上、根治率が高く、より術後 QOL を保てるため、患者負担の少ない手術と言えます。ダヴィンチ手術では、3D モニターを見ながら、腹部に小さな穴を6箇所空けてそこから鉗子を入れて手術を行います。



ダヴィンチシステムの長所として、



- 10~15 倍の拡大かつ立体視野
- エンドリストによる、直感的で繊細な手術操作
- 手ぶれ補正

等のロボット独特の操作性にて腹腔鏡下手術よりもより、さらに繊細かつ高精度な手術が可能です。

これにより、出血量の軽減、術後の早期回復が可能となり、最近のメタアナリシスでは、従来の開放手術や腹腔鏡下手術よりも出血量だけでなく、尿失禁や性機能の改善が良好との結果がでています。当院の手術症例でも同様の結果が出ています。



また、大阪警察病院では、ドクターだけでなくコメディカルスタッフと協力し、よりきめ細かな医療を行い、患者さんに安心して治療を受けていただけるように日々、努力しています。

【大阪警察病院ダヴィンチチーム】



【手術費用について】

2012年4月より、手術支援ロボット「ダヴィンチ」を使用した手術のうち、前立腺がんの全摘出手術が保険適用になっています。

(泌尿器科領域では、2016年4月からは腎部分切除術、2018年4月より膀胱全摘除術、2020年4月より腎盂形成術および仙骨腔固定術が保険適応になっています。)

おわりに

早期(限局性)前立腺がん治療には、大阪警察病院では、この他にも放射線療法(IMRT および密封小線源療法)、内分泌療法、PSA 監視療法などの内科的治療も含めて、ほぼすべての治療オプションの選択が可能です。患者さんの年齢、社会的状況などを考慮して適切な治療法を選択することが重要で、治療方針については、前立腺カンファレンスにて放射線治療科や病理科のドクターとディスカッションを行い、決定しています。担当医の説明を十分に聞いて、ご自分に合った適切な治療法を選択してください。

今後も、大阪警察病院は、より安全かつ高度で患者さんに優しい医療を目指して努力します

お問合せ： 大阪警察病院 泌尿器科
06-6771-6051 (代表)